



2012年3月期  
第1四半期 決算説明資料

---

2011年 8月 3日  
富士ソフト株式会社



# 目次

---

- P. 1 ◇ 連結業績ハイライト
- P. 2 ◇ 主なグループ会社の売上高
- P. 3 ◇ 連結セグメント別売上高
- P. 4 ◇ 連結損益計算書
- P. 5 ◇ 連結貸借対照表
- P. 6 ◇ 連結キャッシュ・フロー計算書
- P. 7 ◇ 連結S I事業の受注高・受注残高



## ● 連結業績ハイライト

### 売上高は、主要子会社の減収を主因に、前年同期比95.6%

◇単体およびヴィクサスを除く連結子会社については、各社とも前年同期を上回り増収となりましたが、ヴィクサスにおいて前年度の大型案件の反動減および主要顧客の投資抑制の影響により2,239百万円、およびマーキュリースタフィングを持分法適用会社にしたことにより520百万円の減収となり、連結売上高は前年同期比95.6%の31,338百万円となりました。

### 営業利益は、単体の営業利益増加を主因に、大幅増益

◇単体の売上高増加および売上原価率の改善と販管費抑制による大幅増益により、連結の営業利益は424百万円となりました。

◇四半期純利益は、税金計上等により△239百万円となりました。

(単位：百万円)

	2011年3月期 1Q実績	2012年3月期 1Q実績	前同差	前同比
売上高	32,775	31,338	△ 1,437	95.6%
営業利益	66	424	+357	636.4%
営業利益率	0.2%	1.4%	+1.2%	
経常利益	83	286	+202	343.1%
経常利益率	0.3%	0.9%	+0.7%	
四半期純利益	488	△ 239	△ 727	-
四半期純利益率	1.5%	-	-	



## ● 主なグループ会社の売上高

(単位：百万円)

	2011年3月期 1Q実績	2012年3月期 1Q実績	前同差	前同比
富士ソフト (東証一部)	15,801	16,497	+695	104.4%
サイバネットシステム (東証一部)	3,636	3,863	+227	106.2%
ヴィンキュラム ジャパン(JASDAQ)	2,173	2,277	+103	104.8%
サイバーコム (JASDAQ)	1,272	1,593	+320	125.2%
ヴィクサス (非上場)	6,201	3,961	△ 2,239	63.9%
上記5社合計 (連結消去前)	29,084	28,192	△ 892	96.9%

### 主なグループ会社の売上高のポイント

#### ● 富士ソフト

組込系ソフトウェア開発は、機械制御系が堅調だったものの、通信制御系の落ち込みを補えず前年を下回りました。しかし業務系ソフトウェア開発は流通業・製造業向けが牽引し、またプロダクト販売もネットワーク機器・デジタルテレビ関連が牽引して前年を上回り、前年同期比104.4%となりました。

#### ● サイバネットシステム

CAEの主力ソフトウェア分野（機械系、光学系）の保守契約更新が好調に推移し、また新規のライセンス販売も伸長して、前年同期比106.2%となりました。

#### ● ヴィンキュラム ジャパン

大手小売業グループの新規案件の獲得により堅調に推移し、前年同期比104.8%となりました。

#### ● サイバーコム

主要顧客の統合案件拡大や海外向けの複合機・プリンタ等の制御系ソフトウェアが好調で、前年同期比125.2%となりました。

#### ● ヴィクサス

前年度の大型案件の反動減と主要顧客の投資抑制の影響により、大幅な減収となりました。



## ● 連結セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2011年3月期 1Q実績	2012年3月期 1Q実績	前同差	前同比
売上高 合計	32,775	31,338	△ 1,437	95.6%
SI事業	30,202	29,207	△ 994	96.7%
組込系ソフトウェア開発	9,204	8,774	△ 430	95.3%
業務系ソフトウェア開発	11,248	10,597	△ 650	94.2%
アウトソーシング事業	4,213	3,481	△ 731	82.6%
その他SI事業	5,536	6,354	+818	114.8%
ファシリティ事業	550	494	△ 56	89.7%
その他事業	2,022	1,636	△ 386	80.9%

### セグメント別売上高のポイント

- **組込系ソフトウェア開発**  
前年度から引き続き、デジタルテレビ関連、スマートフォン関連は好調だったものの、フィーチャーフォン開発案件が減少して、組込系ソフトウェア開発全体では減収となりました。
- **業務系ソフトウェア開発**  
公共分野での新規案件等がありその他業務系の売上が好調だったものの、ヴィクサスの前年度の大型案件の反動減と主要顧客の投資抑制の影響により、業務系ソフトウェア開発全体では減収となりました。
- **アウトソーシング事業**  
データセンタービジネスは好調なもの、ヴィクサスの主要顧客のシステム運用・保守減少に伴い減収となりました。
- **その他SI事業**  
自社プロダクトの販売好調により前年同期比114.8%となりました。
- **その他事業**  
マーキュリースタッフینگ（前同期売上高520百万円）の連結除外により減収となりました。



# 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2011年3月期 1 Q実績	2012年3月期 1 Q実績	前同差	前同比
売上高	32,775	31,338	△ 1,437	95.6%
売上原価	25,428	24,254	△ 1,173	95.4%
売上原価率	77.6%	77.4%	- 0.2%	
売上総利益	7,347	7,083	△ 264	96.4%
売上総利益率	22.4%	22.6%	+0.2%	
販売費及び一般管理費	7,280	6,658	△ 621	91.5%
販管費率	22.2%	21.2%	-1.0%	
営業利益	66	424	+357 ①	636.4%
営業利益率	0.2%	1.4%	+1.2%	
営業外収益	415	199	△ 215 ②	48.0%
営業外費用	398	337	△ 60	84.7%
経常利益	83	286	+202 ②	343.1%
経常利益率	0.3%	0.9%	+0.7%	
税金等調整前四半期純利益	55	238	+182	426.8%
法人税等合計	△ 563	329	+892 ③	-
少数株主利益	130	147	+17	113.4%
四半期純利益	488	△ 239	△ 727 ③	-
四半期純利益率	1.5%	-	-	

## 損益計算書のポイント

### ①営業利益の主な変動要因

主に単体の営業利益の大幅増益を主因に増益

### ②経常利益の主な変動要因

持分法投資損益が悪化（前同差△212百万円 エース証券等）したものの、単体の増益を主因に増益

### ③四半期純利益の主な変動要因

税金計上等のため



# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2011年3月期 期末	2012年3月期 1Q 期末	前期末差
<b>流動資産</b>	<b>57,534</b>	<b>51,177</b>	<b>△ 6,357</b>
現金及び預金	22,045	18,677	△ 3,367 ①
受取手形及び売掛金	28,385	23,068	△ 5,317 ②
仕掛品	1,453	2,846	+1,392
その他	5,650	6,585	+934
<b>固定資産</b>	<b>111,881</b>	<b>109,556</b>	<b>△ 2,324</b>
有形固定資産	76,343	75,830	△ 512
無形固定資産	11,700	11,464	△ 235
投資その他の資産	23,837	22,261	△ 1,576 ③
<b>資産合計</b>	<b>169,416</b>	<b>160,733</b>	<b>△ 8,682</b>
<b>流動負債</b>	<b>55,099</b>	<b>48,978</b>	<b>△ 6,120</b>
買掛金	7,565	6,419	△ 1,145 ②
短期借入金・1年内返済予定の長期借入金	33,916	28,062	△ 5,853 ①
未払費用	6,087	7,865	+1,778 ④
その他	7,531	6,631	△ 899
<b>固定負債</b>	<b>30,038</b>	<b>27,721</b>	<b>△ 2,316</b>
長期借入金	21,641	19,550	△ 2,090 ⑤
その他	8,396	8,170	△ 226
<b>負債合計</b>	<b>85,137</b>	<b>76,700</b>	<b>△ 8,436</b>
<b>純資産合計</b>	<b>84,278</b>	<b>84,033</b>	<b>△ 245</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>169,416</b>	<b>160,733</b>	<b>△ 8,682</b>

## 貸借対照表のポイント

- ①現金及び預金 (前期末差△3,367百万円)  
短期借入金 (前期末差△5,853百万円)  
不測の事態に備えて積み上げた手元資金を一部返済
- ②売掛金 (前期末差△5,317百万円)  
買掛金 (前期末差△1,145百万円)  
季節要因による売掛金、買掛金の減少
- ③投資その他の資産 (前期末差△1,576百万円)  
投資有価証券の売却 (前期末差△932百万円)  
利益計上に伴う繰延税金資産の減少 (前期末差△557百万円)
- ④未払費用 (前期末差+1,778百万円)  
冬季賞与引当の計上
- ⑤長期借入金 (前期末差△2,090百万円)  
約定返済に伴う減少



# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2011年3月期 1Q実績	2012年3月期 1Q実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,725	4,833	+1,108
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,637	321	+1,959
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,074	△ 8,511	△ 6,437
現金及び現金同等物の増減額	18	△ 3,367	△ 3,386
現金及び現金同等物の期首残高	16,687	22,044	+5,357
子会社の新規連結による現金及び現金同等物の増加額	85	0	△ 85
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>16,790</b>	<b>18,676</b>	<b>+1,886</b>

## キャッシュ・フローのポイント

- **営業活動によるキャッシュ・フロー**  
経常利益の改善と売上債権の回収を主因に前年同期末と比べて1,108百万円増加しました。
- **投資活動によるキャッシュ・フロー**  
サイバネットシステムの投資有価証券の売却を主因に321百万円のプラスとなりました。  
それに加え、前年に投資したデータセンター関連や自社プロダクトの開発等の支出が大きかったことにより前年同期末と比べて1,959百万円増加しました。
- **財務活動によるキャッシュ・フロー**  
不測の事態に備えて借入れた手元資金の一部返済と借入金の約定返済により減少しました。





## ● 連結SI事業の受注高・受注残高

(単位：百万円)

	受注高				受注残高			
	2011年3月期 1Q実績	2012年3月期 1Q実績	前同差	前同比	2011年3月期 1Q末実績	2012年3月期 1Q末実績	前同差	前同比
<b>SI事業 合計</b>	<b>28,083</b>	<b>28,895</b>	<b>+811</b>	<b>102.9%</b>	<b>33,106</b>	<b>30,957</b>	<b>△ 2,149</b>	<b>93.5%</b>
組込系ソフトウェア開発	9,468	8,888	△ 579	93.9%	7,625	7,688	+62	100.8%
業務系ソフトウェア開発	10,602	10,798	+196	101.9%	12,051	11,254	△ 797	93.4%
アウトソーシング事業	3,335	3,279	△ 56	98.3%	7,757	6,512	△ 1,245	83.9%
その他SI事業	4,678	5,928	+1,250	126.7%	5,671	5,501	△ 169	97.0%

### 受注高・受注残高のポイント

#### ● 受注高のポイント

デジタルテレビ関連は地デジ化の駆け込み需要により堅調に推移したものの、フィーチャーフォン関連の開発減少が加速し、組込系ソフトウェア開発で、前年同期比93.9%となりました。しかし、業務系ソフトウェア開発やその他SI事業（プロダクト販売等）が堅調に推移し、SI事業全体では前年同期比102.9%となりました。

#### ● 受注残高のポイント

前年度の業務系ソフトウェア開発における大型案件の反動減、および証券業向け子会社における主要顧客の契約更新期間の短縮化、ヴィクサスにおける主要顧客のシステム運用・保守減少を主因に、前年同期比93.5%となりました。

※第1四半期連結会計期間より、契約上の受注残高を集計する方法から工事進行基準売上高を考慮した受注残高の集計方法に変更しております。



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、あわせてご理解いただきますようお願い申し上げます。